

学習内容報告書 フォーマット

学校名	長崎県立五島南高等学校
授業者	奥野、森、三浦、吉田、大馬、村瀬

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

1. 漂着物調査・研究

1-2. 学年

夢トライコース1、2年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

学校設定教科「地域共生」における学校設定科目「みなみタイム」「地域創造Ⅰ」

1-4. 単元の概要

漂着物調査・研究への取りかかりとして、五島の海についての学習を簡単に行う。1年生に対しては漂着物調査の動機づけとなる内容を、2年生には前年度の活動を振り返る形での学習を行う。その後、漁業体験活動等を交えながら、漂着物調査および研究を継続的に行う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

五島南高等学校普通科夢トライコースは、全国から生徒募集を行っており、島外から離島留学で入学する生徒が大半である。島外出身の生徒であるため、海の美しさや島の環境の素晴らしい部分にのみ注目や感動をしがちで、現在の海ゴミ問題などに対する意識が低い状態で入学してくる。漂着物調査・研究を実施することで、海洋環境保全の重要性を感じ、どのような漂着物があるのかを学ぶことをねらいとする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

島の海洋環境保全に興味・関心を持つとともに、その役割を担う意識を醸成する心を育みたい。

1-7. 単元の展開（全11時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>(1) 五島の海について知る。 (2) 前年度の活動内容の確認</p>	<p>【教師の指導】 I C T機器を活用し、五島の海について調べるための方法を生徒に伝え、生徒が自ら調べて学習しようとする姿勢を育成した。</p> <p>【主な評価】 生徒は、五島の海的美しさを知るとともに、一昨年度の五島市海洋漂着物発生抑制啓発事業で、自分の学校の先輩が発表しているなど、漂着物の問題について知ることができた。</p>
10	<p>(1) 海岸における漂着物回収 （中浜海岸、浜田海岸で実施） (2) 回収した漂着物の洗浄・分類作業</p>	<p>【教師の指導】 漂着物調査の方法と注意点を指導。現地において、回収方法を指導した後、生徒の主体的な活動を促しながら活動観察。</p> <p>【主な評価】 生徒は、実際に漂着物を回収することで、漂着物の問題を実感できた。また、洗浄・分類作業で漂着物の種類などを大まかに分類できた。</p> <p>【外部連携】 年度当初は地域のボランティアも募集する予定であったが、コロナ禍のため、大人数での授業が不可能であり、地域連携が実施できなかった。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元

1 1

 時間中の

2, 3

 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・漂着物回収の方法を学習する。（漂着物の回収 1 回目）・漂着物の洗浄方法を学習する。 |
|--|

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>【主な学習活動】</p> <p>○調査対象となる海岸の確認。</p> <p>○海岸における危険箇所の学習。</p> <p>○漂着物回収の方法を学ぶ。</p> <p>○漂着物の洗浄方法を学ぶ。</p> <p>【生徒の反応】</p> <p>○ガイダンス後で、初めての漂着物回収ということで、生徒は興味・関心を高く持って取り組んでいた。</p> <p>○積極的に多くの回収を行おうとしたため、回収の時間がぎりぎりになってしまい、洗浄の時間が短くなってしまった。</p>	<p>【教師の指導・支援】</p> <p>○調査対象となる海岸の確認および危険箇所等の立入禁止区域の確認指導。</p> <p>○漂着物回収用の道具を配付、回収方法の指導。</p> <p>○現地において、生徒の動きの観察・支援。</p> <p>○漂着物洗浄の方法および漂着物の保管方法の指導。</p> <p>【評価の方法】</p> <p>○漂着物回収、洗浄等の活動に積極的に取り組んでいるかどうかを、生徒観察によって評価を実施。</p> <p>○授業後に生徒の自己評価も含めた記録用紙をレポートとして提出。レポートの内容を基に評価を実施。</p>

3. 今回の活動の自己評価

- 初めての漂着物調査・回収によって、海ゴミの多さを実感できたことで、海ゴミ問題に対する意識を向上させた。
- 漂着物の回収方法と洗浄方法を学んで、今後は細かい説明がなくても自発的に準備をしたり、取り組んだりする意識の醸成に繋がった。

4. 今後の課題

- コロナ禍でソーシャルディスタンスを保つ必要があり、グループで回収を行う際の注意が必要である。
- 漂着物を無差別に大量に回収すると、学校での保管場所があふれてしまうため、調査ごとの回収の量を決めて回収する必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

実施概要で掲載している写真については、データで使用すると拡大等ができるため、公開する際は写真データを削除する必要がある。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。